

# 平成 23 年燧灘カタクチイワシ漁況予報

平成 23 年 6 月 21 日  
香川県水産試験場

香川県では、平成 5 年から燧灘海域において、愛媛県、広島県と共同でカタクチイワシの資源管理に取り組んでいる。平成 22 年の共販の取扱数量は 1,480 トンで、前年比 54%、平年比（平年値：平成 5 年～平成 21 年までの平均）89%であった。取扱金額および平均単価はそれぞれ 9 億 4,700 万円（前年比：52%、平年比：67%）、640 円（前年比：97%、平年比：73%）であった。平成 22 年の共販量・共販金額は、チリメンを除く銘柄で、前年と比べて大幅に減少した。また、平年値と比べると、大羽以外の銘柄で平年値を下回った。資源が低迷期から回復した平成 12 年以降で、共販量・共販金額ともに最低となった。ここでは、過去 17 年間の調査を基に、平成 23 年 6 月下旬以降の漁況予測を行った。

## 1. 水 温

燧灘東部沖合 4 点における水深 10m の水温の変化をみると、1 月から 6 月の水温は、2 月の「やや低め」を除き、「平年並み」で推移している。前年と比べると、2 月の水温が低かった。カタクチイワシは水温が約 13℃以上になると産卵を始めることが知られており、今年は 5 月間近になってから産卵が始まったものと思われる。6 月 1 日の水温は、平年より 0.3℃低く、前年より 0.6℃低かった。

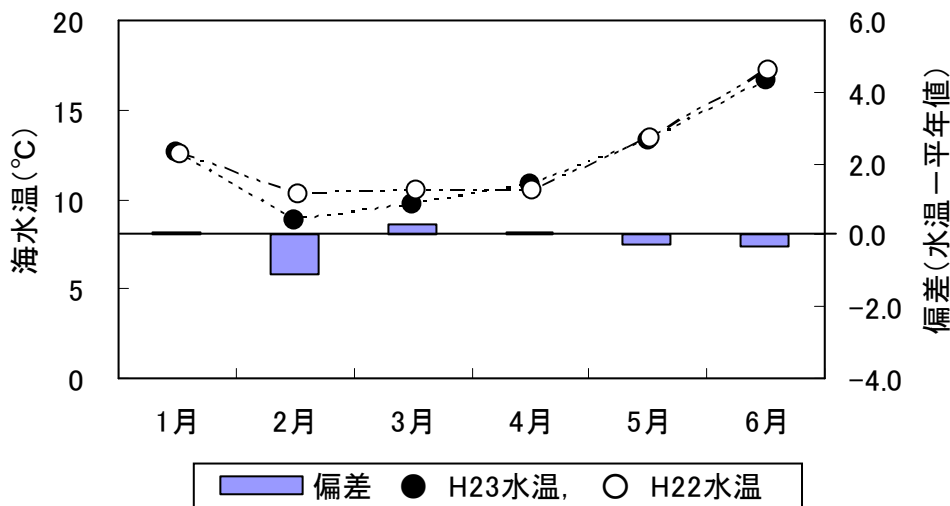


図 1 燧灘における水深 10m の水温の季節変化

## 2. カタクチイワシの卵と仔魚の出現状況

カタクチイワシの卵稚仔の出現状況について調べるため、4 月上旬から 6 月下旬の間に合計 6 回の卵稚仔調査（浅海定線調査を含む）を行った。卵稚仔の採集はマル特 B ネット（口径 45 cm）の 20m 鉛直曳きで行った。

カタクチイワシの卵は、4 月下旬から出現した。5 月上旬から 6 月上旬にかけての出現量は、前年より少ないものの、平年より 2 倍以上多かった。また、6 月下旬の出現量は、前

年および平年より2倍以上多かった(図2)。仔魚については、前年の出現量より少ないものの、平年並みからやや多めに出現していた(図3)。これらのことから、産卵量は、前年に比べると少ないものの、平年に比べると、多いものと考えられる。

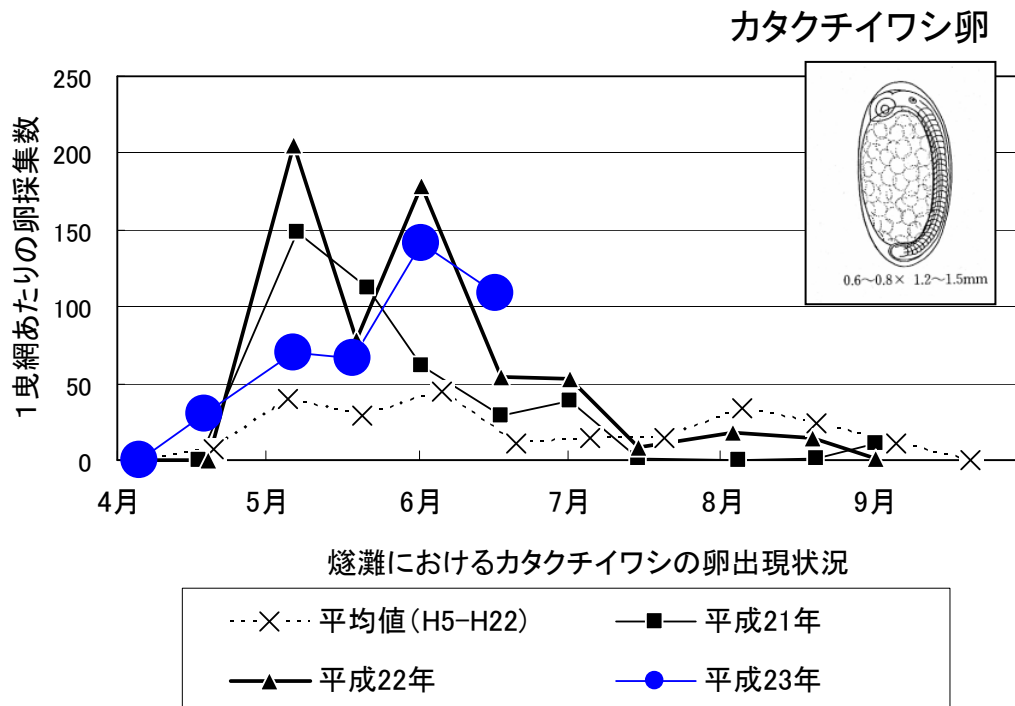


図2 1 100m網あたりのカタクチイワシ卵の採集量

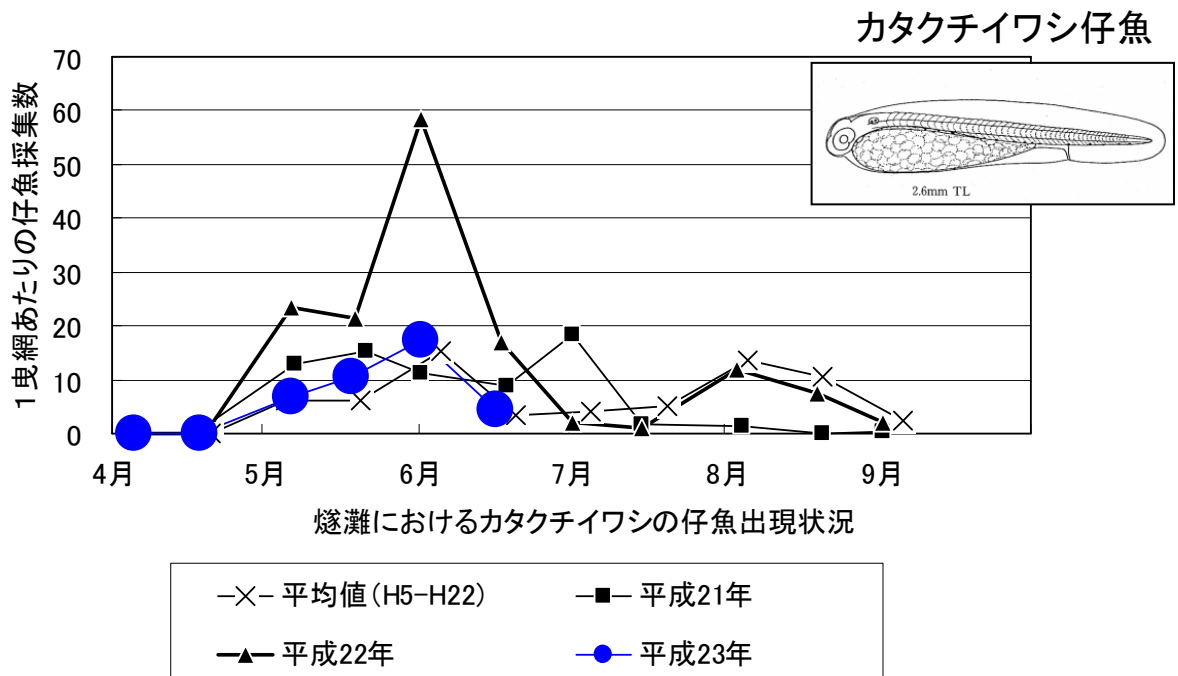


図3 1 100m網あたりのカタクチイワシ稚仔の採集量

### 3. プランクトン

口径45cmのマル特Bネットで動物プランクトンと大型植物プランクトンの調査を実施した。4月上旬から6月下旬までのプランクトンの優占種と沈殿量を表1に示す。

プランクトンの量（沈殿量）は、4月～6月にかけて、前年よりかなり少なかった。優占プランクトンは、カタクチイワシの主餌料であるカイアシ類（COP）であったが、その密度は、プランクトン量が少ないことから、平年より低いものと推定される。平成23年の餌料環境は、低い水準であると考えられる。

表1 プランクトン優占種と沈殿量の推移

	4月上旬	4月下旬	5月上旬	5月下旬	6月上旬	6月下旬
平成23年	COP	COP	COP	OPH	COP	RAD
(沈殿量 mL)	NOC	NOC	COS	COP		HYD
	COS	COS				
	0.2	1.0	0.7	0.4	0.7	3.5
平成22年	COS	NOC	NOC	NOC	NOC	NOC
(沈殿量 mL)	NOC	COP	DOL	COP		DOL
	COP	COS	COP	COS		
	3.7	3.9	4.8	6.8	5.2	9.2

※「網かけ」がされているものが、餌となるプランクトンである。

COP：コペポータ（カイアシ類） RAD：ラジオリリア（放散虫類）

NOC：ノクチルカ（夜光虫） DOL：ドリオラム（ウミタル）

HYD：ヒドロ（ヒドロクラゲ類） COS：コスキノディスクス（珪藻）

### 4. カタクチイワシの漁況予測

6月下旬から漁獲されるチリメンは5～6月に燧灘で産卵された卵が孵化、成長したものである。卵稚仔調査によれば、卵および仔魚の出現量は「平年より多め」に推移している。カタクチイワシの餌となるカイアシ類の量は、「少なめ」に推移している。

この時期のカタクチイワシは1日約0.7mmで成長し、漁獲サイズの30mmに成長するのは孵化してから約40日後と考えられている。したがって、一般的には早いもので6月上旬からチリメンとして加入し始めるものと推定される。

チリメン漁解禁後の漁況予測：4～6月の水温が低めに推移しているため、前年同様に加入が遅れるものと考えられる。5～6月の卵と仔魚の出現量は「平年より多い」ことから、十分な産卵量が確保できている。しかし、餌料環境は「良くない」ものと思われる。以上のことから、チリメン漁のすべり出しはややもたつき、チリメンの加入量は、「平年並み～やや少ない」ものと推定される。